

質問	クロピドグレル錠 75mg の簡易懸濁法での投与は可能ですか？
回答	<p>クロピドグレル錠 75mg は、錠剤のコーティングを破壊した製剤では、約 55℃の温湯で 5 分以内に崩壊・懸濁し、8Fr.のチューブ及び 18Fr.のガストロボタンを通過しています。</p> <p>また、調製懸濁液の pH は 2.1 であり、調製 10 分後まで安定であることが確認されています。</p> <p>詳しくは添付のデータをご覧ください。</p> <p>この資料は本剤の懸濁状態及びチューブ通過性を検討した資料であり、臨床で経管投与した場合の有効性・安全性の評価は行っておりません。</p> <p>本剤をご使用の際には添付文書をご確認の上、医療従事者の裁量と判断のもとに行っていただきますようお願い致します。</p>
参考資料	【クロピドグレル錠 75mg「ケミファ」】 簡易懸濁法に関する資料